

# 富士山火山防災マップ



## 富士山火山防災マップを作成した目的

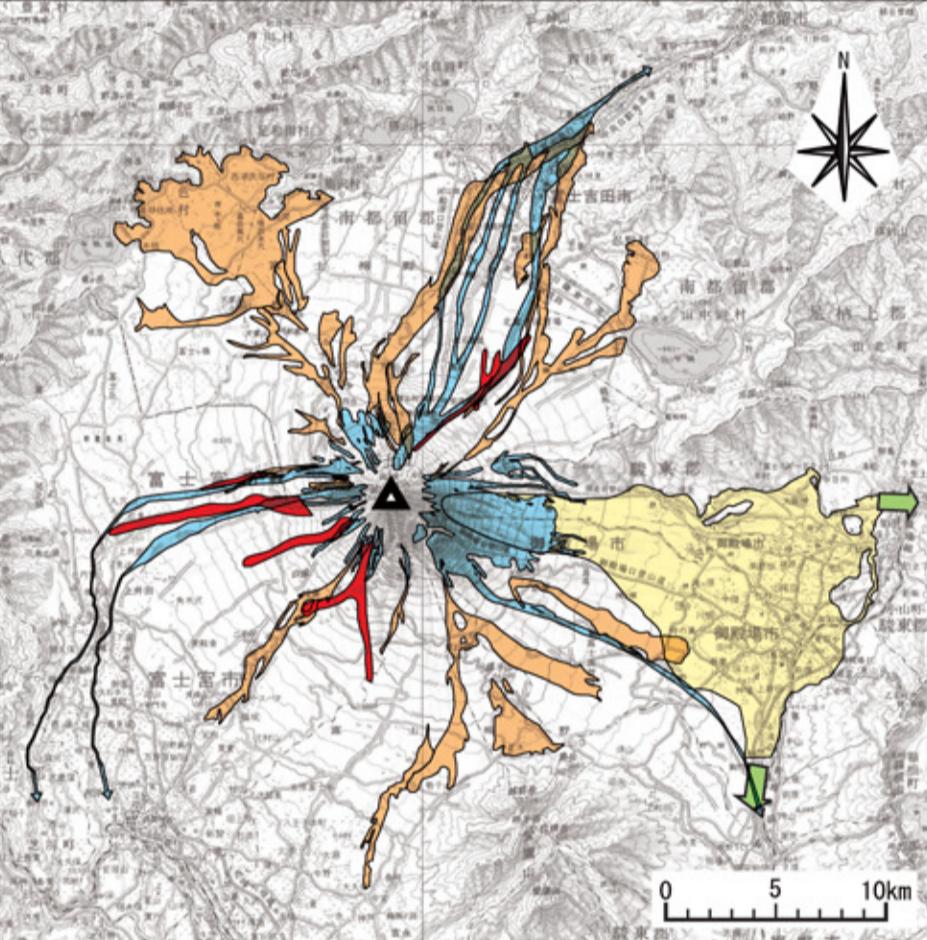
- ◆富士山は、今から約300年前に噴火した後、今まで静かな状態が続いています。しかし、地下深くでは今もマグマが活動を続けている活火山です。
- そのため万が一噴火しそうになったり噴火が始まったりした時に備えて、皆さんがあなたの安全を確保するためにどのような知識を学び、どのような行動をすればよいかを知つていただくために、この防災マップを作成しました。
- ◆なお、富士山すぐに噴火が起こるような兆候は、現時点（平成16年）においてありません。
- ◆このマップは一定の条件にもとづいて推定された影響範囲や被害の程度を表したものであり、実際に噴火した場合はこのマップに示された内容と異なる部分が出てくる場合もあります。
- ◆富士山では過去さまざまな規模や種類の噴火が起きており、噴火の場所も山頂だけに限らず、山腹にも多くの火口が分布しています。このような富士山の噴火の特徴をこのマップから学び、どのような現象がどこまでやってくるのかを十分理解した上で、的確な防災行動がとれるように心がけください。
- ◆もっと富士山について詳しいことを知るために下記のホームページへ！  
<http://www.bousai.go.jp/fujisan-kyouikai/>

発行・企画：富士山火山防災協議会  
監修：富士山ハザードマップ検討委員会（委員長：荒牧重雄）  
調査・制作：（財）砂防・地すべり技術センター

平成16年6月作成

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の50万分の1地方図及び20万分の1地勢図、5万分の1地形図及び2万5千分の1地形図を複製したものである。（承認番号 平17総複、第1017号）

## 過去にはこんなことも起こっています。



### 記号と色の意味

溶岩流実績	岩屑なだれ実績	雪泥流実績	火碎流実績
溶岩流の流下範囲	御殿場原産なだれの堆積物範囲	流れの可能性がある方向	雪泥流の流下範囲

\*溶岩流は富士山火山灾害マップ（富士砂防事務所・山梨県・静岡県）による

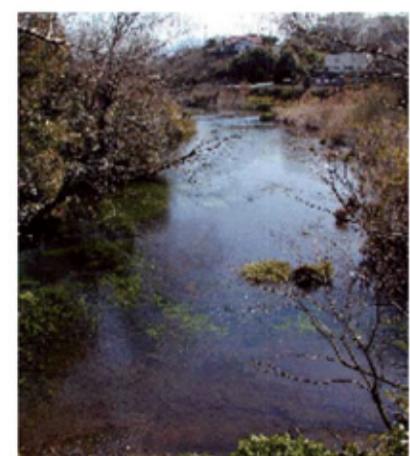
ここには過去3200年に起きた主要な現象の実績が描かれています。（溶岩流は過去2000年間）なお、3200年前以前には、ここに描かれている実績を上回る大規模な現象が発生したこともありますが、そのような現象はまれなものですが。（平成14年9月末時点での調査による）

## 富士山の豊かな自然との共生

ふだんは、火山としての富士山の恵みを受けています。  
このことを常に意識して生活することが、災害を防ぐ上で重要です。

### 火山の造形をさがす

富士山の山麓には、たくさんの美しい「火山の造形」を見つけることができます。富士山の噴火によって降り積もった火山灰が何枚も層をして美しい崖をつくっている場所が、おもに東麓にたくさん見られます。このほか溶岩樹型や、「風穴」「水穴」などの名前で呼ばれ観光資源として利用されている溶岩トンネルなども、富士山の噴火が作り出した造形にはなりません。



須走登山口入り口にある「富士山グランドキヤニオン」。このように富士山の過去数万年間の噴火活動を、美しい地層として見ることができます。

（写真提供：小山町観光協会）

富士山南東麓の  
静岡県駿東郡清水町にある  
柿田川湧水地  
(写真提供：小山 真人)

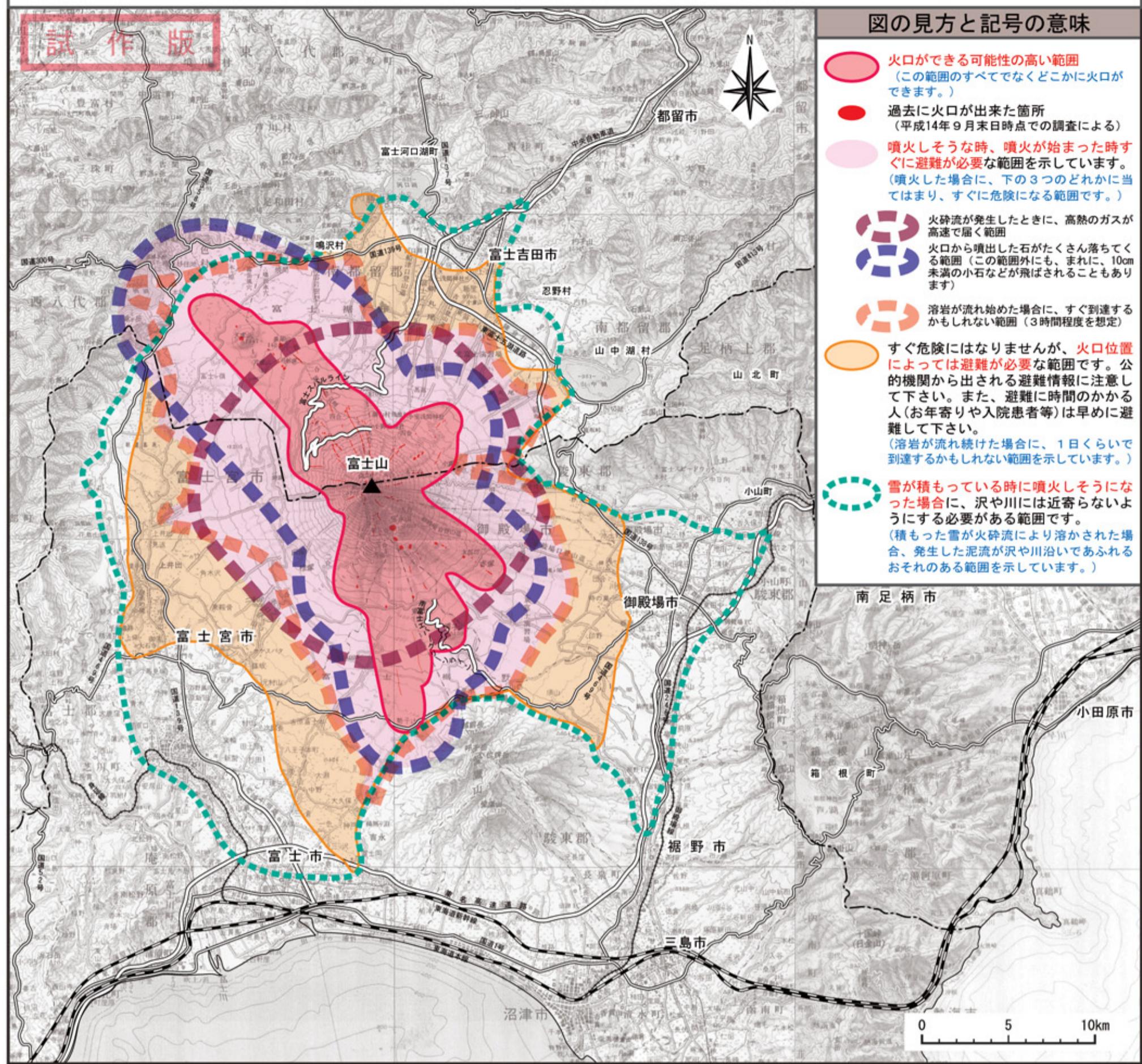
### 火山特有の豊富な地下水

富士山の麓からは大量の地下水が湧き出しています。一見、水を通さないように見える溶岩流も、実は空洞やすき間だからであり、その内部に大量の水を蓄えたり、通過せたりすることができます。富士山に降った雨や溶けた雪が大量の地下水となり、溶岩流の内部をつたって麓にまで流れ下ってくるのです。

富士山が噴火しそうな時には、公的機関からの情報に注意し、万が一に備えて避難の準備をする等、適切に行動しましょう。

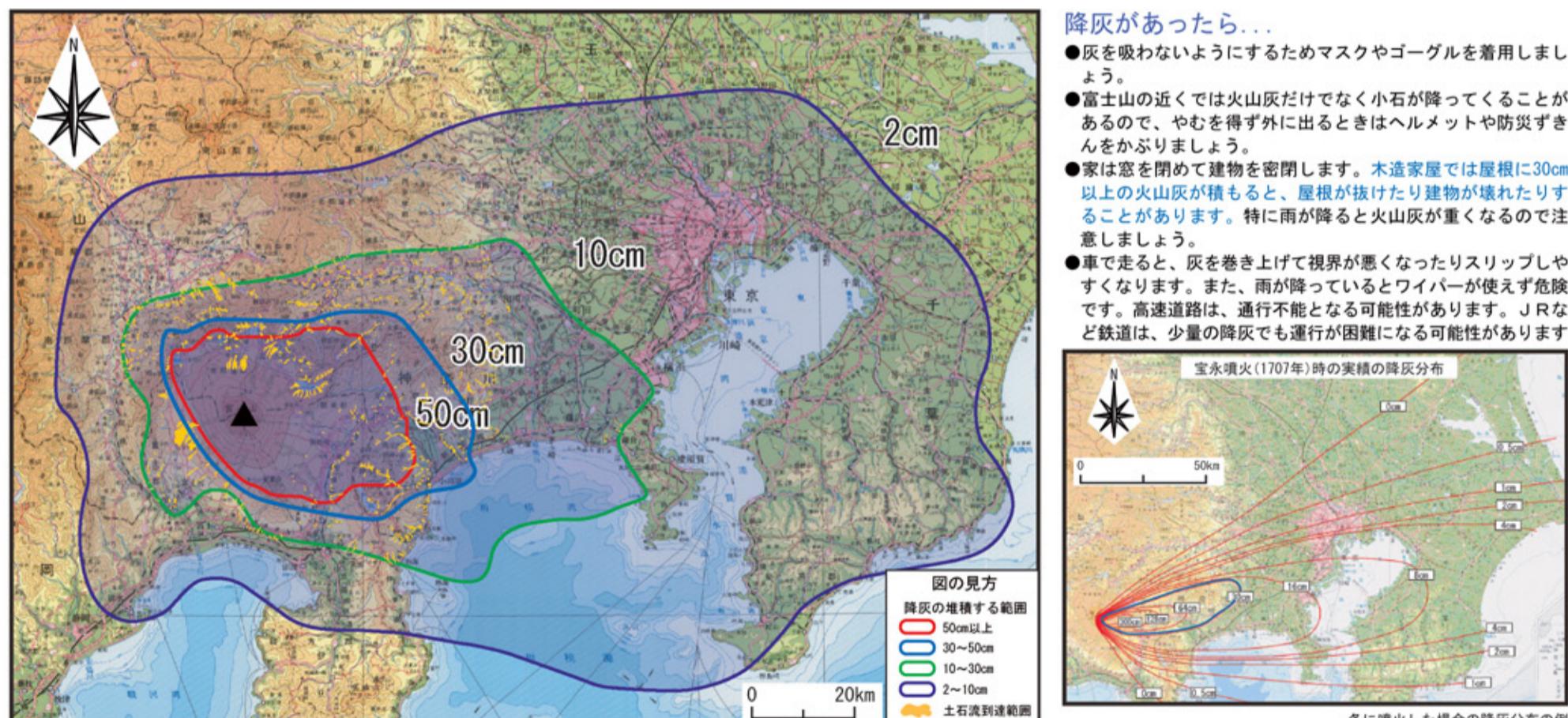
ここに着色されているすべての範囲が、同時に危険になるわけではありません。

[仮に富士山が噴火した場合に、溶岩流・噴石・火碎流などの影響がおよぶ可能性の高い範囲を、すべて重ねて描いたものです。]



## 火山灰や軽石を出す大規模な噴火の場合広い地域に火山灰が降ります

季節によって風向きが変わるために、火山灰の到達範囲は変わります。この図はすべての季節を重ねて描いているため、実際の降灰範囲は異なる場合があります。



## どのような現象が起こる!? どのような注意が必要!?

### 溶岩流（ようがんりゅう）



高熱の溶岩が斜面を流れ、家や道路を埋め尽くの木々を燃やします。流れの速さは人が歩く程度なので、余裕を持って逃げることができます。

（写真提供：東京都）

### 土石流（どせきりゅう）



山の斜面に火山灰が厚く積もると、雨で流れで土石流となります。特に厚さ10センチメートル以上積もる地域では、何回も土石流が起こることがあります。人が走るより速く流れるので、降雨時は注意が必要です。

（写真提供：DEITZ(株)）

### 火碎流（かさいりゅう）



高温の岩石・火山灰・火山ガスの混合物が斜面を高速で流れ下り、巻き込まれると死する場合があります。自動車より速く流れるので、早めに避難する必要があります。

（写真提供：DEITZ(株)）

### 岩屑なだれ（がんせつなだれ）



山の一部が崩れて大きななたまりとなって雪崩のように高速で流れでます。約2500年前に富士山東側の御殿場方面に崩れることや、さらには昔にも複数回あった可能性があることがわかっています。広域に被害が及ぶので、危険性が高まった場合には、早めの避難が必要です。

### 噴石（ふんせき）



噴火時に火口から放り飛ばされる直径数センチ以上の岩の破片や軽石といいます。大きな噴石が当たると、家は壊れ、けがをしたり死ぬこともあります。とくに火口から半径2キロ以内は噴石がたくさん飛んでくるので危険です。1707年の宝永噴火では、上空の強い西風に乗って、火口から10キロほど離れた場所で20センチ程度の軽石が飛んできました。

さらに20キロ離れたところでも数センチの軽石が飛んできました。とくに風下では、マップに着色されていない範囲でも噴石に注意して下さい。降灰や噴石がない場合でも、初冬や春先の降雪時には噴石や雪崩の危険があるので要注意です。

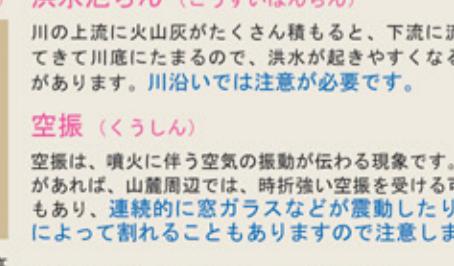
### 融雪型火山泥流（ゆうせつがたかざんでいりゅう）



雪が積もっている季節に噴火が始まると、火碎流などの高温の岩に雪が融けて、斜面の土砂を取り込んで高速で流れ下ります。おもに谷底など低いところを流れますが、あふれで広がることもあります。山頂付近から一気に流れ下るのを早めの避難が必要です。

（写真提供：PANA通信社）

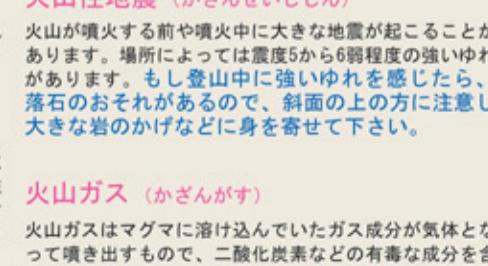
### 洪水氾濫（こうずいはんらん）



川の上流に火山灰がたくさん積もると、下流に流れでて川底にたまるので、洪水が起きやすくなることがあります。川沿いでは注意が必要です。

（写真提供：PANA通信社）

### 火山性地震（かざせいじしん）



火山が噴火する前や噴火中に大きな地震が起こることがあります。場所によっては震度5から6弱程度の強いゆれがあります。もし登山中に強いゆれを感じたら、落石のおそれがあるので、斜面の上方に注意し、大きな岩のかけなどに身を寄せて下さい。

### 火山ガス（かざんがす）

火山ガスはマグマに溶け込んでいるガス成分が気体となって噴き出しますので、二酸化炭素などの有毒な成分を含むことがあります。火口などのガスが出てる周辺や地帯などのガスがたまりやすいと思われる場所には近づかないなどの警戒が必要です。

### 降灰（こうはい）

細かく碎けたマグマが空高く吹き上げられ、風に乗って遠くまで運ばれます。火口の近くでは薄く積もり、遠くにゆくにしたがって徐々に薄くなります。外出控え車の運転には注意しましょう。

### 津波（つなみ）

富士山で発生した実績は確認されていませんが、他の火山では山が崩壊し、その崩壊土砂が水域に突入することによって津波が発生させた事例もあります。湖の周辺では津波に対する警戒も必要です。